

# 平成29年度 第1回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

## テーマ 『実践例から学ぶ、現場で使える医療と介護の連携 Part1』

いなべで良かったを広げよう

司会：吉田委員（日下病院） 中村委員（紫苑）

- 日 時：平成29年7月21日（金）19：30～21：15
- 場 所：員弁コミュニティプラザ
- 参加者：120名

平成29年度の研究会は、実務面でより強いつながりを作っていくために、新しいステップに進めることとし、『実践例から学ぶ、現場で使える医療と介護の連携』とテーマを定めました。

第1回目は、「退院が決まった段階から、専門職が地域でどのように活動したか」について「いなべ地域の実践事例」をご報告いただき、『こうやって連携したら、こんなにうまくいきました』を参加者間で振り返り、医療と介護の連携について考える機会としました。



### 意見交換会の内容

- ☆ 医師、PT、CMなどの本音（気持ち）意見を聞く事ができた。末期の方の”生き方”のサポートを実際に聞いて勉強になった。
- ☆ 患者さんの生活を教えてもらうのに多職種の視点があることで見えてくるもの、教えてもらえるもの、増えることを実感させていただきました。
- ☆ 様々な職種の方々たちと意見交換ができ、在宅への支援に対して、意識が変わった。
- ☆ 本人・家族の思い、したい暮らしを支援できることが、支援者の達成感につながる。

## 1. 実践事例『退院カンファレンスからはじまった、地域での連携～ケアマネジャー・訪問看護師・薬剤師による取組実践～』

\* 報告者 \*

ケアマネジャー：居宅介護支援センター パークレジデンス 福西真奈美さん

訪問看護師：ナーシングホームもも・いなべ 松田志保さん

薬剤師：パンプキン薬局 田中大喜さん

## 2. 意見交換会

- 1) 実践例や経験談から、「できたこと・できなかったこと」「見えること・見えないこと」を確認
- 2) 次のステップ「連携には何が必要か」「自分たちの役割は何なのか」 など

### 実践事例報告の感想

- ☆ 医師・看護師・ケアマネ・薬剤師が連携しとてもわかりやすい事例でした。薬剤師の方の活動が良くわかりました。
- ☆ 症例に関わった人の話で、何がよく、今後の問題点もわかりよかったです。
- ☆ 自分では関わった事のないような事例を聞けるのは参考になります。特に医療連携は数が少ないので他にも聞きたいです。
- ☆ いなべ地域での多職種連携が進んでいる様子を見せていただきうれしくなりました。

# 平成29年度 第2回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

## テーマ『実践例から学ぶ、現場で使える医療と介護の連携 Part2』

「在宅医療みまもり隊」

～H28年度医療・介護フェア キャッチコピー①～

司会：渡部委員（とまと歯科）

松田委員（ナーシングホームもも・いなべ）

●日 時：平成29年9月15日（金）19：30～21：15

●場 所：員弁コミュニティプラザ

●参加者：127名



「生活を見る医療」

～H28年度医療・介護フェア キャッチコピー②～

いなべ地域には特色の異なる6つの病院があり、お身体の様子によって入院できる施設が揃っています。

今回は、自宅への退院が多い急性期一般病棟を中心にした病院の専門職の方々から「入院から始まる在宅に向けた多職種による退院支援」と題してご報告いただき、地域の病院と事業所・専門職とがどのような協力体制を作っていけるかを考える機会としました。

携わる専門職が一堂に会し見通しを持ち、より強いつながりができることで、ご本人・ご家族だけでなく専門職にとっての「安心」にもつながることを改めて確認しました。

### 実践事例の感想

☆入院初日からアセスメントして、在宅に戻った時のことを考え、看護師、リハビリの先生が取り組んで見えることが良くわかりました。

☆MSWの方の病院内での仕事はかなり幅広く、我々がお世話になっている以外の部分での役割が大変大きいことが良くわかった。

☆病院側とケアマネさん達がとても連携が取れているのだということがわかった。

☆病院での取組がわかりました。各専門職が関わり、自立に向けている方向は福祉と一緒にだと理解できました。

☆入院→退院→在宅への流れの理解ができた。

### 1. 実践事例『いなべ総合病院における

#### 入院から始まる在宅に向けた多職種による退院支援』

\*報告者\*

看護部長 小辻俊通さん

副看護部長 小林美和さん

脳卒中リハ認定看護師主任 三谷祐子さん

社会福祉士主任 杉本淳子さん

理学療法士技師長 葛巻寿満さん



### 2. 意見交換会

「病院が、地域の事業所や専門職に期待すること・できること」

「地域の事業所や専門職が、病院に期待すること・できること」など

### 意見交換会の感想

☆医療と介護の関わりは切り離すことはできないものなので、今後はもっと身近にお互いに気軽に相談し合えるようになればよいと思います。

☆実際に多機関が困っていること、病院へ求めていることがわかってよかった。

☆病院と施設の連携や、医療機関へのアプローチ方法など工夫の仕方を学ぶことができた。

☆他職種での意見を交換することで視野が広がった。

☆病院さんとはなかなか関係が作れなかったのが、とてもよい機会になりました。

☆施設の方がどんな思いで退院したあと見ていてくれるかよくわかった。医療ニーズが高い患者にとっては、レスパイトが安心だということがわかった。

# 平成29年度 第3回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

- 日時：平成29年11月11日（土）  
14:30～16:30
- 場所：いなべ総合病院 2階 会議室
- 参加者：73名

第3回は、いなべ医師会との合同開催です。

司会：いなべ医師会 萩原和光医師  
佐藤運営委員（いなべ総合病院看護師長）

講演『知っておきたい認知症と改正道路交通法の知識  
～私たち医療従事者は  
この問題にどう対応したらよいか？～』  
講師 社会医療法人 財団新和会 八千代病院  
認知症疾患医療センター

センター長 川畑信也先生



平成29年3月にスタートした改正道路交通法について、高齢者等の支援に携わる医療・介護関係者が知っておくべき、車の運転の問題や更新時の認知機能検査等について、ご講演いただきました。

## ●講演内容を紹介します！●

- ・高齢者ドライバーの事故に関する情報
- ・道路交通法の改正ポイントを正しく理解
- ・病型別にみた運転事故の特徴
- ・高齢運転者の運転免許更新時の認知機能検査や講習
- ・改正道路交通法の現在の問題点

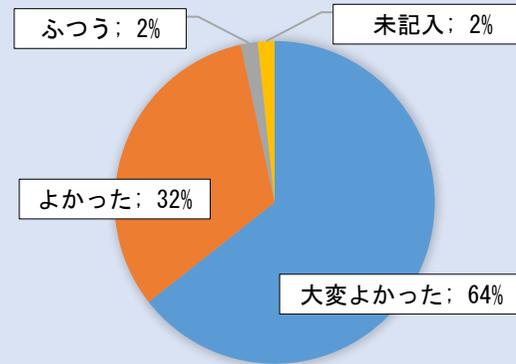
☆運転免許証の更新は、国民の権利☆

☆免許証の返納ではなく、運転せずに暮らせる対策☆

☆ご本人の残りの暮らしを大切にする視点が重要！☆

## 講演の感想を、一部ご紹介

### 講演内容【アンケート結果】



- ・本人がどうやって幸せな生活を送れるかが大事というお話、良かったです。支援者として心に留めておきます。
- ・認知症の高齢者の車の運転については、現実によく相談を受ける内容で興味深い内容でした。
- ・実際のケースをまじえわかりやすく教えていただきました。運転と生活、暮らしについてはどの方にも共通する課題だと思います。本人・家族とともに早めに運転に対する相談を日頃から行って行き

いなべ医師会 介護認定主治医研修会（同時開催）

## 『介護認定審査会における、主治医意見書について』

東員町福祉部長寿福祉課 笠原稜一朗氏

介護保険の流れ、主治医意見書の位置づけや活用方法、特記すべき事項など、認定審査会で求められるポイントについて説明がありました。



『主治医意見書は、「医療」と「介護」の連携、主治医と介護支援専門員との“連携ツール”であるという説明が印象に残った』という感想が寄せられました。

～H28年度医療・介護フェア キャッチコピー～

# 平成29年度 第4回いなべ在宅医療・介護連携研究会を開催しました

## テーマ『実践例から学ぶ、現場で使える医療と介護の連携 Part3』

司会：田中委員（特別養護老人ホームアイリス）  
佐藤委員（ほくせい調剤薬局）

- 日 時：平成30年1月12日（金）19：30～21：15
- 場 所：員弁コミュニティプラザ
- 参加者：128名



今回は、ターミナル支援に関わった専門職の方々からご報告をいただきました。それぞれの専門職がどのような視点を持ち、どのように連携を取り支援したのか…。事例を通し、**多職種連携の重要性**を考える機会となりました。チームケアが、看取られる方、看取る方の**大きな力**になることが改めて認識でき、葬儀での弔辞「**医療職・福祉職の方に支えられて母を看取れた。皆さんも、自分の生まれ育ったこの「いなべ」で、安心して死ねる町になったんです。**」の言葉につながったようです。

また、参加者アンケートの結果から「連携が進んだ」と感じる方や「連携したことがある」と答えた方が増えており、**他職種の方との連携が増えてきました。**

### 1. 実践事例

『多職種連携による日中独居がん患者のターミナル支援』  
～訪問診療医・訪問歯科医・理学療法士・ケアマネジャーによる取組実践～

\*報告者\*

訪問診療医 どんぐり診療所院長 平山将司さん  
訪問歯科医 とまと歯科院長 渡部信義さん  
理学療法士 日下病院 廣瀬巧真さん  
ケアマネジャー いなべ市社協ケアプランセンター  
土井貴子さん



### 2. 意見交換会

- 1) 自らの経験談から「在宅療養を希望しながら、実現しなかった事例とその原因」を紹介
- 2) 「連携には何が必要か」「自分たちの役割は何なのか」など

### 実践事例の感想

- ☆多職種の連携がいかに患者様、家族様の力になり、安心して在宅介護（療養）ができるんだなあと思いました。
- ☆いろいろな立場からの連携が、少しずつですが（ネットワークづくり）進んでいることが良くわかった。
- ☆在宅医療に必要なサービスがどのような職種が必要か、理解できた。
- ☆多職種連携、リハ、口腔の看取りの関わりは勉強になった。
- ☆訪問リハビリや歯科と連携という視点を、学ぶことができてよかったです。

### 意見交換会の感想

- ☆他職種それぞれの立場からの意見交換は、違った視点で聞く事ができてよかったです。
- ☆多職種の、多くの人がいることがわかり心強くなった。
- ☆どの職種も、連携に関して問題視しているといった地域の課題が分かった。
- ☆地域で実践されている医療者の声を聞いた。
- ☆歯科の先生から話を聞いてよかった。
- ☆時間があまりなかったですが、グループ内での実践例を聞いてよかったです。
- ☆活気があり、元気をいただいた。  
全ての参加された方が前向きな意見でした。



# \*\*平成29年度 いなべ在宅医療多職種連携研修会を開催しました\*\*

- 日 時：平成29年12月16日(土)13:30～15:45
- 場 所：員弁コミュニティプラザ ●参加者：66名
- 内 容：

講演 「地域包括ケア時代を支える看護と介護の統合  
～「医療モデル」から「生活モデル」へ～」

講師 一般社団法人だんだん会理事長 宮崎和加子先生

(前全国訪問看護事業協会事務局長)

本研修会は、医療・看護・介護・福祉の専門職の方々に、在宅医療について理解を深めていただき多職種のネットワークを広げ、在宅医療が推進することを目的に、毎年実施しています。

今回は、国の政策「地域包括ケアシステム」「我が事・丸ごと共生地域づくり」も捉えつつ、真に地域住民にとって必要なこと、地域を愛する方々に役立つこと・できることに取り組んでおら

## ☆宮崎先生の講演から…☆

- 独居でも、要介護5でも、身寄りのない方でも、認知症でも…ご本人が望むなら、**地域で暮らし、家で看取れる地域づくり**をしよう！
- 重度の方を、本人の思いに反し選択の余地なく病院や療養型に押し込んでおく地域では、**できの良い地域包括ケア**とは言えない！
- 生活を支える場に昼夜はなく、重度の要介護状態や医療ニーズの高い状態でも、**家族の負担を最小限**にし、24時間・365日、**多職種のチーム**で、**自分らしい人生の最期を送る**ことができるように**支援**。
- 地域に求められる**“たくましく優れたプロの看護介護集団づくり”**。プロとしての目標・使命は「ご本人が今ある力で、自分らしく主体的に生ききる人生」の応援団として、**最高の支援！80点以上のサービス！**を提供すること。

## ☆講演を聞いての感想☆

- 今まで多くの研修に出席させていただきましたが、今回が一番良かった。気持ちがあっさりした。**最高のサービスをする意識**をもって介護します。
- 看護・介護の**連携の重要性**を改めて実感しました。
- もっともっと聞きたかったです。使命感もとても強く、自分の**姿勢を改めて考え直す機会**になりました。
- 「生きたいように最期の瞬間まで生きる。その支援を全力でしていくこと。」**簡単なようでとても難しく、とても重要なことだと思いました。
- 看取りの考え方、専門職としての心構えを学んだ。
- 「プロの仕事」**をする**覚悟、意気込み**が素晴らしいと思った。**“自分も頑張ろう”**と思えるお話でした。

